

「地域防災計画における地震・津波対策の充実・強化に関する検討会」第2回議事概要

1. 検討会の概要

- (1) 日 時：平成23年7月27日（水）15：30－17：30
- (2) 場 所：TKP 大手町カンファレンスセンター EAST ホール1
- (3) 出席者：室崎座長、今村委員、岩隈委員（代理 佐々木）、大和田委員、小川委員、国崎委員、越野委員、半田委員、山崎委員

2. 議事概要

- ・ 座長の挨拶後、大和田委員より、東日本大震災における気仙沼市の初期の災害対応について説明。
- ・ 事務局より、前回の検討会における委員からの意見等を踏まえ、今後検討すべき論点(案)のほか、東日本大震災における被災3県沿岸市町村の初期の災害対応及び東日本大震災に関する住民アンケート結果(速報)について説明。
- ・ 今後検討すべき論点(案)の中で、特に被害想定及び避難対策について、委員による自由討議。
- ・ 東日本大震災を踏まえた地域防災計画の見直しに関する調査票(都道府県用・沿岸市町村用)の説明。

【各委員の主な意見】

- 避難訓練について、単に訓練をするという地域防災計画ではなく、実働訓練を重ねて訓練の内容を見直していく方向性が重要である。また、歩行速度も含め、避難時間を考慮した具現的な検討も重要になってくると思う。
- 非常用電源の設置について、設置の有無のみならず、何日間分の電源を確保するかが重要になると思う。
- 非常用電源の整備・活用については、以前の震災対応からかなり問題になっていた。今回の地域防災計画の見直しにおいても極めて重要な課題であり、今後、詳しく調査していく必要がある。
- 車での避難のあり方と避難路を広くしたらどうかなどの話は、一概に一律的に決めることはできない大きな検討課題だと思う。
- 被害想定には限界がある。発生頻度の低いものをどこまで考慮するか、例えば確率的手法というものもあるが、そこまで持っていくのかどうか重要になる。

- 被害想定においては、なるべく想定外のことが起きないように、津波の高さを精密に予測するなど、きちっと想定しておくというリスクマネジメントと、それでも想定外のことがやはり起きる、最悪の事態が起きるのだというクライシスマネジメントをしていくような2本立てで考えるべき。前者はハード対策などである程度考えないといけないが、後者はソフト対策も含めて考えることが重要。今までの被害想定のかえ方を大きく変えないといけないと思う。
- ハザードマップは一つのモデルであって、全部ではないことを住民に丁寧に説明し、住民の防災に対するリテラシーを高める必要がある。ハザードマップを使って住民とコミュニケーションをとることを、防災対策の柱の1つに置くことが重要である。
- ハザードマップそのものが安心マップになっていた感がある。ハザードマップに示されていない場所等の危険性をどう住民に理解していただくかが課題である。
- 市役所など災害対応の拠点を含めた公共施設の設置場所と、被害想定は非常に関連してくる。災害の初動対応を行う拠点を失わないために被害想定をどうするか、確率論的にとらえるのか、考える最悪の事態を想定して拠点をつくっていくのか、というところで論点が分かれてくるのではないか。
- 津波については、避難をするに当たって防災都市計画、あるいは国民保護計画との接続を考える必要があるのではないか。
- 被災地の復興・復旧に向けて、国として、将来の防災対策を見据えた非常用の水利・電源、都市の構造及び道路のあり方等を提案して、自治体の防災拠点のあるべき姿はどういうものなのかという絵図をデザインしてほしい。
- 税や住民台帳などの市民情報のデータを今回のように損失してしまわないように、バックアップシステムを整備する必要がある。国なのか県なのか、それとも後方支援協定を組んだ自治体なのかなどを、検討した上で地域防災計画に明示しておく必要があるのではないか。
- 避難所に地元の被災情報等が全く入ってこないなどの情報不足により、津波警報の継続中にもかかわらず、住民が避難所から途中で帰宅する原因になったと、住民からの意見があった。
- 津波に関しては、警報途中の情報が殆どなかった。地元の气象台から、津波の観測データや警報解除の見通しなどの途中の情報を提供していただければ、避難者をとどめておく説得の材料になると思う。

- 避難所に避難した人に対して、どのような方法で、細やかなローカルな避難や被害に対する情報を提供するのかというのは1つの大きな課題だと思う。
- 津波の到達時間の短いところと長いところではその対策や対応がそれぞれ違う。これらをどう整理して地域防災計画の中へ盛り込んでいくかということ、地域で議論していく必要があると思う。
- 車による避難について、今回さまざまな経験と実態があるので、何がよくて何が問題なのか、効果または問題点等、特にビデオなどの映像から具体的に整理する必要があると思う。
- 例えば、車にはカーラジオがあるので、常時情報を受け取るには良いが、その内容が全国区であったりする。また、車は閉鎖空間なので、周りの様子がわからないという問題もある。
- 車による避難については、特別なチームをつくってデータも交えて解析をしないとけない。また、車を使っていい人と使ってはいけない人、使っていていい地域と使っていて悪い地域などのすみ分けも必要かもしれない。
- 車による避難について、単に車による避難は禁止ということは簡単だが、地域で生活するための車がどういう位置づけにあるのか、車への依存度が大きい現状等も踏まえながら考えていかななくてはならない。
- 国民保護との連携も視野に入れて、自衛隊車両の幅などを意識した避難路や避難ルートの整備を進めることが必要ではないか。
- マイナス（失敗）の教訓だけでなく、プラス（成功）の教訓もしっかり拾い上げて次に生かしていくということも必要である。
- 災害直後は現地でのヒアリング調査が難しい。半年、1年を経過すると、いろいろな体験談や、事実、映像などを収集できると考えられ、できるだけ網羅的にアーカイブしたいと考えている。今、重要でないと考えられるものも将来重要になるかもしれない。それらを含め、どのように体系づけて、国民的、国家的、世界的なアーカイブをつくるのかというのは大きな課題である。